

2022年3月 JICA 月次レポート

生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業

<活動状況>

1. 対象校の WASH（水と衛生）施設の修繕工事
2. 女子教育と再利用可能な生理用布ナプキン「Happy Pad」の活用をテーマとしたラジオトークショー実施
3. 月経時の衛生管理、性教育、ジェンダー問題についてのブックレットの編集、及びリーフレットの仕上げ
4. Happy-Pad プロモーションセンター改修の完了に向けた作業

1. 対象校の WASH（水と衛生）施設の修繕工事

各県で実施した事業開始（キックオフ）の会合に続く活動として、月経時の衛生管理の観点から各校のニーズに合わせた修繕工事を全ての学校において開始した。事業開始の会合はムベンデ県では 2022 年 2 月 8 日に、ワキソ県では 2022 年 3 月 4 日に、ブタンバラ県では 2022 年 3 月 3 日に実施し、その後工事に着手した。

ムベンデ県

多くの学校においては水道システムやトイレ、洗面所などの施設の修繕案を採用したが、コミュニティからの寄付を募り、新たに建物を新設した学校もあった。各校の改修状況は以下のとおりである。

CAWODISA 小学校 チバリンガ準群	
	
<修繕前>	<修繕後> トイレと女子用洗面所を修繕した。トイレの一つ目のドアが女子用洗面所であり、写真右は正面から撮影したものである。
Kabbowa 小学校 チバリンガ準群	
	
<修繕前>	<修繕後> 女子用洗面所及び更衣室を修繕し、たらい桶とジェリカンを設置した。
Kategga 小学校 チガンド準群	



<修繕前>



<修繕後>

全校生徒に対しトイレが一つしかなかったため、トイレを新設することにした。資金不足の問題は保護者やコミュニティからの寄付で解決した。

Kasaana Church of Uganda 小学校



<修繕前>



<修繕後>

女子用洗面所を修繕した。

Gwanika Primary 小学校 ナビンゴラ準群



<修繕前>



<修繕後>

校内に洗面所や更衣室として機能できる施設がなかったため、トイレと洗面所がひとつになった建物を建設することにした。

Ikula 小学校 チガント準群



<修繕前>



<修繕後>

女子トイレの、ドアノブもなく劣化し壊れたドアを修理した。

Dyangoma 小学校 チガント準群



<修繕前>



<修繕後>

水タンクにつながる集水の樋の設置、及び洗面所の床を修繕した。

Kiyiita 小学校 ナビンゴラ準群

		<p><修繕後> 女子トイレには更衣室や洗面所が併設されていなかったため、新設中である。</p>
<p>Kassasa 小学校 ナビンゴラ準群</p>		
		<p><修繕後> 洗面所が併設されていない女子トイレに、洗面所と更衣室を新設している。</p>
<p>Christ the King 小学校 チバリンガ準群</p>		
		<p><修繕後> 男子生徒、女子生徒、教員、近隣の人々に使われている二連のトイレがあったが、60フィート掘削し洗面所付きの4連トイレを建設することに決まった。2022年3月上旬の時点では25フィートの深さまで掘削が進んでいた。</p>

ワキソ県

ワキソ県では Kigooggwa Muslim 小学校、Jinja Kaloli 小学校以外のすべての学校において修繕工事を実施した。工事の詳細は以下のとおりである。

*Kigooggwa Muslim 小学校は事業開始の会合に不参加であり、市の教育長が対応することにはなっているが、2022年の4月末までに当小学校への支援を継続するかの決定を下す予定である。Jinja Karoli 小学校は多額の資金が必要な水タンクの修繕に着手すべきかまだ検討途中である。

Kirolu UMEA 小学校



<修繕前>



<修繕前>



<修繕後> 洗面所にドアを取り付けたため、生理中の女子が安心して使用できる。



<修繕後> 女子用洗面所の壁の穴を埋め、覆った。

Lwadda cu 小学校



<修繕前>



<修繕後> 鉄製シートを取り付けた。

Maganjo UMEA 小学校



<修繕前>



<修繕後> 粗い状態であった洗面所の壁の修繕に加え、新たにドアを取り付けた。

Kanyange Mixed 小学校



<修繕前>



<修繕後> 水タンクには集水の樋がなかったが、樋を取り付け雨水が貯まるようにした。

Kitanda CU 小学校



<修繕前>



<修繕後> ドアを取り付けたトイレ

Buwambo C/U 小学校



<修繕前>



<修繕後> 集水の樋と雨水浸透ますを修繕した。



Ssanga C/U 小学校



<修繕前>



<修繕後> 集水樋ホルダーを取り付けた。樋も今後設置予定である。

Kitungwa 小学校



<修繕前>



<修繕後> 修繕作業中の女子用洗面所。ドアを取り付け、状態のよくなかった床や壁を修繕した。

ブタンバラ県

ブタンバラ県においても以下の通り各校で修繕工事が進んでいる。

Bule UMEA 小学校



<修繕前>



<修繕後> タイルを敷き、女子用洗面所にドアを設置した。

Butalunga 小学校



<修繕前>



<修繕後> 新しく洗面所を建設した。今後ドアや屋根を取り付ける予定である。

Ntolomwe 小学校



<修繕前>



<修繕後> 洗面所の場所を変え、ドアに鍵を取り付けた。

Nawango 小学校



<修繕前>



<修繕後> ドアを取り付けた洗面所。 漆喰塗装は作業途中である。

Nkokoma 小学校



<修繕前>



<修繕後> 洗面所としてトイレを使用していたため、新たに洗面所と更衣室を建設中である。

Kiwala 小学校



<修繕前>



<修繕後> 更衣室を拡大し、ドアに鍵を取り付けた。

Butende 小学校



<修繕前>



<修繕後> 更衣室がなかったため新たに設置し、ドアと屋根を取り付け、漆喰を塗った。

Kitagobwa 小学校



<修繕前>



<修繕後> 汚れた女子用洗面所の床を修繕した。

Lwamasaka 小学校

<修繕前> 学校に更衣室がなかった。



<修繕後> 更衣室を建設したが床が乾いていないためまだ使用できない。

Kayenje 小学校



<修繕前>



<修繕後> 床は修繕工事途中であるが、ドアを先に取り付けた洗面所。

2. 女子教育と生理用布ナプキン「Happy Pad」の活用をテーマとしたラジオトークショー実施

より多くの人々がラジオを通して恩恵を受けられるよう、ゴールデンタイムにトークショーを実施した。本事業に対し感謝を伝えようと電話参加してくれたリスナーも多く、また、本事業の活動が他の準郡へ拡大されることを願っているリスナーもいた。

ムベンデ県

2022年3月21日（1回目）、22日（2回目）、19:00-20:00に「Heart FM」でトークショーを実施し、プロジェクトマネージャー、プロジェクトオフィサー、ボランティアが出席した。1回目の主な話題は女子生徒が学校に通うことの重要性・利点、通えないことで生じるリスク、また学校での洗面所及び更衣室の必要性などであった。2回目の話題は月経時の衛生管理を普及させ男性を関わらせること、男性を巻きこんで問題に取り組んでいくことの利点、また巻き込まないことで生じる危険性などであった。



プロジェクトマネージャーが教育の課題について述べ、ボランティアが更衣室と洗面所の必要性において啓発した。（3月21日）



プロジェクトオフィサーが女子を学校に通わせることへの妥当性に関してリスナーに教えている。（3月21日）



月経時の衛生管理に関する問題に男子生徒を巻き込まないことで生じるリスクに関してボランティアが啓発している。(3月22日)



プロジェクトマネージャーが活動に対する男子生徒の関り方の現状をリスナーに伝えている。(3月22日)

ワキソ県

2022年3月25日(1回目)、27日(2回目)、「Voice of Kiryagonja」で45分間のトークショーを実施し、プロジェクトマネージャー、プロジェクトオフィサーが出席した。1回目の主な話題は女子生徒が学校に通うことの重要性、利点、通えないことで生じるリスク、また学校での洗面所及び更衣室の必要性などであった。2回目の話題は月経時の衛生管理を普及させ男性を関わらせること、男性を巻きこみ問題に取り組んでいくことの利点、また巻き込まないことで生じる危険性などであった。更に Katalemwa Secondary School に位置する Happy-Pad プロモーションセンターの宣伝も行った。



プロジェクトマネージャーが Happy-Pad プロモーションセンターの完成をリスナーに広めている。(3月25日)



プロジェクトオフィサーは女子生徒が学校に通うことの利点を述べている。(3月25日)



プロジェクトマネージャーが男性の関わり度合における現状と、関わらない場合に生じるリスクなどについて強調した。(3月27日)



プロジェクトオフィサーが男性の活動参加がもたらす恩恵についてリスナーに伝えた。(3月27日)

ブタンバラ県

2022年2月23日(1回目)、26日(2回目)、「Voice of Butende」でトークショーを実施した。1回目の主な話題は女子生徒が学校へ通う重要性、通わないことに対するリスクとその結果、事業の進捗状況

などであった。トークショーにはプロジェクトオフィサー及びチームリーダーが出席し、事業の概要や状況を説明、また事業開始の会合についての報告をした。更に女子生徒が学校に通えるように月経時の衛生管理に理解を示し、女子に優しい環境づくりをすることへの重要性について話した。

2 回目の主な話題は女子生徒が学校に通うことの重要性、通えないことで生じるリスク、また女子が学校に通うことで家族やコミュニティ、国家がどのような恩恵を受けることになるのかについてであった。2 回目のトークショーには Butende 小学校の女性教員が出席した。



「Voice of Butende」にプロジェクトチームと Butembe 小学校の女性教員が出演している様子。

3. 月経時の衛生管理、性教育、ジェンダー問題についてのブックレットの編集、及びリーフレットの仕上げ

リーフレットは仕上げ工程に入り、最終の見直し前に試し刷りを行った。ブックレットはまだ作業中であり、プロジェクトミーティングの中で、意図した対象者に最適且つ正しい内容にするためには政府専門家のレビューを受けるべきだという提案があった。現在プロジェクトチームは保健省の専門家と連絡をとり、最終版に向けて内容の精査をしてもらっている。



リーフレット（表紙）

リーフレット（裏面）

4. Happy-Pad プロモーションセンター改修完了に向けた作業

Katalemwa secondary School に位置する Happy-Pad プロモーションセンターは漸く使用開始の準備が整った。施設にはドアや窓も取り付け、マシンなどの機械も搬入した。本センターは 2022 年 4 月末までには一般に向けて開設予定である



ドア及び窓を取り付けた。



ソケットの導入が完了した。



壁の工事が進んでいる。

<事業による効果的な影響およびもたらした変化>

- 各校の校長たちは学校施設の修繕活動において非常に協力であり、工事過程を更新するために常々写真を送ってくれている。Butalunga 小学校、Ntolomwe 小学校、Nkokoma 小学校では修繕工事が完成できるように地域住民から寄付が集められた。金額はそれぞれ 20,000 (ウガンダ) シリング、133,500 シリング、527,000 シリングであった。

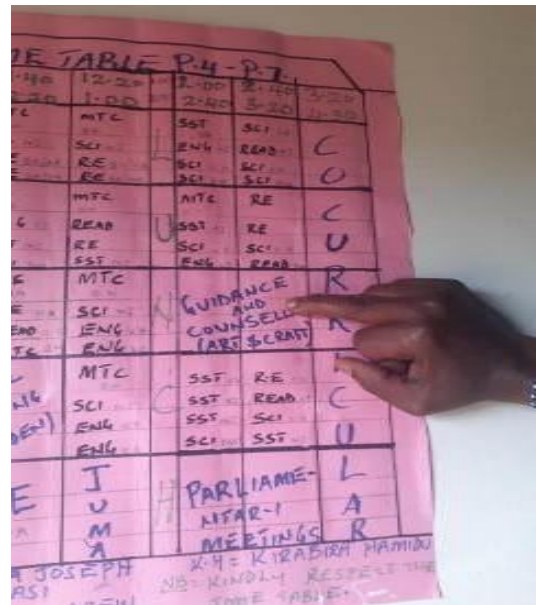


Lwamasaka 小学校の少年たちが女子用洗面所と更衣室の修繕活動に参加している。

- Lwamasaka 小学校では男子生徒が確実に活動に参加していた。男子生徒は建設作業中、レンガを運ぶなどの労働に参加した。
- 各校の学校運営委員、PTA を通すことで各県の施設の修繕工事にコミュニティを巻き込み寄付を集めて実施できた。
- 校長が洗面所や更衣室の建設／修繕が急務であると認識し、優先的に取り組んでくれた学校もあった。
- 全ての対象校から施設の改善に向けて実施する活動に感謝をされた。
- 活動していく中でプロジェクトチームと各学校の間に良好な関係が築けた。
- 父親であっても娘の月経においてサポートをするべきであるとの内容を扱ったワキソ県でのトークショーは、娘を持つ多くの父親にとって驚きの内容であり、彼らはラジオ局の司会者のところまで来てプロジェクトチームをトークショーに招いたことに感謝を伝えてくれたことがあった。
- 事業として学校に介入したことにより、Bule 小学校をはじめ、時間割に月経時の衛生管理に関する指導及びカウンセリングを導入した学校があった。

<直面した問題>

- 学校施設の改善においては非常に多くの修繕箇所があるのに対し、予算は限られたものであった。しかし各学校で可能な限りのリソースを有効活用し、できる限りの修繕を行った。
- スマートフォンを持っていない校長もいたため、修繕工事の過程の撮影及びその写真の共有が直ちに行えない場合があった。
- Jinja Karoli 小学校は雨水の貯水タンクを修繕する必要があり、今回の資金では全く足りないためまだ着手できていない。保護者やコミュニティにはたらきかけて資金を募っている。



Bule 小学校では本事業の開始により、ガイダンス及びカウンセリングを取り入れた時間割に変更した。

<教訓>

- どれだけ少額であっても変化を生むことができることに気が付いた。これは限られた予算の範囲内で各学校が実施した作業や改善具合に表れている。各対象校の校長とプロジェクトチームは非常に協力的であり、また限られた資金を最大限に生かすべく革新的でもあり、学校の財団（学校運営委員及び PTA）に働きかけ独自に寄付を募るなどの活動も行った。
- それにも関わらず、別の活動に充てる今後の資金を当てにされることもあった。修繕が予定通り実施できなかった場合、ミシンの提供やその他のトレーニングなどの活動支援を継続しないということは事業開始の会合の中ではっきりと述べている。